



社会福祉士会の新年度の取り組み

公益社団法人神奈川県社会福祉士会
副会長 小島 操子

県民の皆さまと会員の皆さまに、日頃から本会の活動にご理解ご支援をいただきまして深く感謝申し上げます。

今年も沢山の社会福祉士が誕生しました。おめでとうございます。この社会福祉士会の広報がお手元に届く頃には、全国のあちらこちらに、新人社会福祉士がこの資格を持って仕事に就いていることでしょう。社会福祉士だけでなく、4月から配属が変わって新しい職場になった方、学校に通い始めた方、家族に嬉しい変化のあった方など、4月は様々な出発と出会いの季節です。新しい年度が県民の皆さまと会員の皆さまにとって、実りある1年になることをお祈りしております。

さて、本会の活動も2013年4月から公益社団法人に移行してから4年目になりました。「県内における社会福祉の増進や県民の生活の向上に寄与すること」を目的に、県民の権利擁護や生活困窮者支援に重点を置き活動してまいりました。特に行政からの受託事業として、神奈川県からは「地域生活定着支援事業」と、地域の保健福祉事務所（厚木・小田原）からは《かがやき広場》として「生活保護社会的居場所づくり事業」及び「居住の安定確保支援事業」を受託し、相模原市からは《はばたき》として「生活困窮者一時生活支援事業」、秦野市からは《ワークせせらぎ》として「生活保護受給者就労準備支援事業」をそれぞれ受託してまいりました。

今年度からは、地域の保健福祉事務所の愛甲郡地区である愛川町と、足柄下郡地区である湯河原町・真鶴町・箱根町で、昨年度まで行っていた「生活保護社会的居場所づくり事業」が「生活保護受給者就労準備支援事業」という内容に変わることになりました。これで秦野市から受託している「就労準備支援事業」と合わせて県内3ヶ所で同じ様な事業を行うこととなります。では今までと何が違うのか？

それは、今まで孤立して家に引き籠っていた生活保護受給者が、愛川町と湯河原町で行っていた《かがやき広場》の活動によって、日常生活のリズムを取り戻し食生活の改善やボランティア活動等により、積極的に社会に出ることができるようになったことです。次なる目標は、就労によって自立に向かうことになるのですが、皆さん様々な課題を抱えている方々です。いきなり就労支援は難しいわけですから、今までの支援にプラスして就労体験や就労に向けた知識や技術を学んでいくこととなります。この事業を通して、生活保護受給者が一日も早く経済的自立が出来る様にと願い、活動していく所存です。

社会福祉士会は生活困窮者自立支援制度の研究とともに、この新しい就労準備支援を担う社会福祉士を育てていく予定です。今年度も様々な講座を開催し研修を行ってまいりますので、ぜひ参加してください。

今後とも、本会の活動にご理解ご支援を頂きますよう、お願い申し上げます。

CONTENTS

- 02 【特集】身近な課題「ダブルケア」に関心を
- 04 第25回 日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会(福島大会)のご案内
- 05 平成28年度理事会報告
- 06 たまひよ紀行(横浜支部・茅ヶ崎支部)
- 07 『生涯学習センターよりお知らせ』
- 08 公開講座&研修会・スーパービジョン体制について・編集後記

特集

身近な課題

「ダブルケア」に関心を

日々、子育てに奮闘中にもかかわらず、ある日突然、親が倒れて介護まで…。家庭の中に複数のケアが生じる「ダブルケア」。同時に、孤立化する「ダブルケアラー」（ダブルケア当事者）の実態が指摘されています。ダブルケアの負担感をどうケアすればよいか。子育て支援、居場所づくり、情報発信等、現状と課題を支援者との対話を通じて考えます。

ダブルケアを話せる場が必要

司会：ダブルケアとは、育児と介護が同時に行われていることですが、実際には育児と介護だけでなく、介護と孫支援、配偶者、当事者自身のケアなどその形はさまざまですね

小藪：私はケアマネジャーとして利用者だけでなく介護者とのかかわりが同じくらい大きいことを感じてきましたが、その中でダブルケアをしている人の悩みが非常に深く、しかもダブルケアラーの人たちは孤立してしまっています。たとえば夫にも話せない、家庭内で話題にできないでいるのです

東：私たちは2007年から子育て支援のメルマガを発信しており、そこで横浜国大の先生から声をかけられてダブルケアの調査を一緒に行ったのがきっかけです。当時、母親たちの間では、まだそういった話は聞かれなかったし、最初は半信半疑でした。ところが、実際には少なくないということがわかったんです

司会：そうした状況がなぜ、表には出てこなかったのでしょうか

植木：単に、みんなが言わないだけなんだろうと思います。気軽に話せる場所も機会もありませんし、話してもなにかが改善されるわけではない。しゃべって終わりだったら、言わなきゃよかったみたいな（笑）

司会：ダブルケアという言葉を知って、はじめて自分がそうだと気づいたとか

植木：そう。なぜなら、親の面倒は嫁・娘がみるのがあたりまえといった考え方がまだ強くありますね。弱音なんか吐いちゃいけないんじゃないか、嫁として娘としてやるべきことだ、などという、一種の責任感みたいなものも影響していると思います

東：インタビュー調査をしてみてもわかったのは、話すことで自分の中のモヤモヤとしたものが片付いたり、整理ができたり、人に話したことでスッキリした、という人もいました。だから、話ができる場が必要だということになったのです

ソーシャルワークにダブルケアの視点を

東：ただ、しゃべって終わりにするのではなく、支援につなげないといけないと思いますね

植木：専門家じゃないとわからないことってたくさんありますし説得力が違いますね

司会：そういう意味では社会福祉士の出番がありそうですね。たとえば、当事者の話をきちんと聞いて専門家につなぐといったことができます

小藪：たとえば、親の介護は嫁がやってあたりまえだっという考え方などに潜んでいる、いわば権利侵害のような部分です。わずかであっても、そうした疑問と思え

参加者紹介



東 恵子さん

NPO法人シャーロックホームズ理事長、一般社団法人ダブルケアサポート代表理事。ダブルケア支援に先駆的な活動を行っている。



植木 美子さん

一般社団法人ダブルケアサポート理事、芹が谷コミュニティ「てとと」代表、元ダブルケア当事者。



小藪 基司さん

横浜市すすき野地域ケアプラザ所長、社会福祉士。早くからダブルケア支援の視点で活動している。

る状況を社会福祉士がソーシャルワーカーとしてかかわることで負担が軽くなったり、ソーシャルアクションにつながったりするんじゃないでしょうか。言い換えると制度横断的な部分が社会福祉士の出番といえるかもしれませんね

司会：まさにエンパワメントですね

小藪：はい。要介護者と介護者という、利害が必ずしも一致しないところはソーシャルワークが必要なんです

東：(支援者が)磁石になれるか。いろんなものをくっつけてネットワークをもてるかが大切です。自分の専門だけではだめで、なるべく顔と顔でつながるネットワークを築いていくと支援者の負担もかからず、自分で背負いすぎて潰れることがない。支援者もケアされるべきで、そうした視点をもてる支援者のつながりがあるとお互いに支え合えると思いますね

小藪：支援する人とされる人を明確に分けるのではなく、誰の中にも支援される要素があるので、そこをみんなで補え合えるといい

司会：急がれる課題にはどんなものがありますか

東：とにかくダブルケアについて知ってもらうことです。

ダブルケアとは何か、どういうことが問題なのかをわからない人がまだまだ多いのが現状です。そして、当事者であるその人が、自身がダブルケアラーであることに気づいてもらう機会をもうける必要があります。本人が情報を発信することで、周囲がキャッチできます。支援者は、ダブルケアの視点を持つことが大切だと思います

司会：皆さん、ありがとうございました

(司会と構成：広報委員会)



ダブルケアについて

ダブルケア支援は、2012年に横浜国立大学の相馬直子さんと英国ブリストル大学の山下順子さんが「ダブルケア」という言葉をつくり、ダブルケア研究プロジェクトを始めました。本邦での調査研究は横浜を中心に行われ、子育て支援や介護にかかわるNPO、市民団体が協力し、ダブルケアラーの負担感の大きいことや、誰にも相談できず孤独感を抱えていることが明らかになりました。

ダブルケア調査では調査対象の1割がダブルケアに直面しており、過去に経験した人が約1割、数年先に直面

すると考える人は約2割に上りました。今後、晩産化、少子化、高齢化によりダブルケアラーが増える予想されています。「どこへ相談に行ったらよいかわからない」「ダブルケアのことを理解してくれる人がいない」「子育て、介護は相談窓口が分かれているので困る」といったダブルケアラーの声から、子育て、介護、貧困問題、障害者福祉など既存の福祉サービス体制の中にダブルケアの視点をいれ、当事者のケア関係全体を見据えた包摂的支援が必要です。

(一般社団法人ダブルケアサポート編「知っていますか?ダブルケア」より広報委員会が抜粋・改変)

ダブルケアを知る情報源

一般社団法人ダブルケアサポート
<http://wcaresupport.com>

ダブルケア talk!
(ダブルケアラーのための掲示板
コミュニティサイト)
<http://doublecare-talk.jp/>

冊子

「今、伝えたい～それぞれのダブルケア」
(NPO法人シャーロックホームズ)



今年1月開かれた神奈川県社会福祉士会湘南東支部による市民公開講座のテーマは「ダブルケアとは?」。東さんを講師に迎えました。



今年こそ、
全国大会に
行こう。

第25回 日本社会福祉士会全国大会・ 社会福祉士学会(福島大会)



平成29年 6月3日(土)・
6月4日(日)開催



障壁をこえて ～共に歩む社会福祉士

一般社団法人福島県社会福祉士会 会長 島野 光正

この度、第25回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会を福島県郡山市で開催することになりました。東北では宮城県、秋田県、岩手県に続く4番目の開催となります。今大会について、私たち福島県社会福祉士会は特別の思いを持って開催いたします。東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故から6年が経過し、生活が戻りつつありますが、未だに福島県では被害が続いているところもあります。本大会が開催されるビッグパレットふくしまは震災当時県内でも最大の避難所でした。福島県社会福祉士会の避難者の支援活動はこの避難所から始まりました。神奈川県の方の会員の方もビッグパレットふくしまに支援活動に来ていただいた方もいるかもしれません。全国大会が開催されている期間でも、隣接している土地には仮設住宅が存在しています。また市内の公共施設等には空間の放射線量を測定するモニタリングポストが設置されています。私たちは日常の中の非日常と言っています。他県の方々には十分伝わっていないことかもしれません。本大会は東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所を大きなテーマとはしていませんが、本大会を通じて福島県の「今」を見て、感じていただければと思っています。

さて、本大会は第25回目の全国大会です。社会福祉士国家資格が誕生して25年の間、社会は目まぐるしく動き、ソーシャルワーカーの国家資格である「社会福祉士」が生まれた時には想定されていなかった分野への広がりも出てきています。その社会福祉士の広がりは何もせず自然に役割が期待されてきたわけではなく、開拓、実践を繰り返しながらその必要性を社会に訴えてきたからこそ広がってきたとも言えます。今大会の大きなテーマは「格差」です。昨今の「格差社会」と言われている問題には経済優先の社会や規制緩和などの構造改革から格差や貧困が生まれ、さらに固定化され悪循環を起していることも背景にあるのではないのでしょうか。その社会を否定することだけでは問題の解決にはならないとも考えます。現に私たちはその社会に生きて、その社会を受け入れています。様々な場面で「あたり前に生きていく」ことが脅かされ、持つ者と持たざる者が固定化され、ますます拡大していく社会に警鐘を鳴らし、一人一人を大切にする社会を目指し、社会の障壁を取り除くこと、障壁を乗り越えていく力を見出すことを、全国の仲間と共に考えたいと思っています。

全国大会が開催される郡山市は福島県のほぼ中央に位置しています。交通の要所で経済的にも福島県の中心と言えます。東京からは新幹線で1時間30分程度の距離です。また会場は無料駐車場が800台あります。自家用車等で来ていただければ、会津方面や裏磐梯、いわき方面など風光明媚な観光地への移動がしやすいロケーションでもあります。それとここ数年福島の日本酒が各地の品評会でいい成績を残しています。ぜひ福島のお酒も味わっていただければと思っています。

皆様の参加をお待ちしています。

福島に来る、福が来る!
(らいふくん)

★福島大会の情報を
Facebookで随時発信中!



来福くん

<平成28年度理事会報告>

□第5回理事会

平成28年12月10日(土) 15時～17時30分 ウィリング横浜11階多目的室

議長山下会長、理事出席12、議事録署名人：出席全理事、江原監事

審議事項 議案1 入退会審査 議案2 他団体主催の成年後見相談会への相談員派遣日当(案) 議案3 福祉サービス第三者評価事業運営規則改正(案) 及び謝金等の基準(案)

協議事項 ①法律相談会(暮らしの相談会)開催 ②厚木市ホームレス巡回相談員推薦 ③ぱあとなあ案件への対応進捗状況(緊急対策会議報告等) ④日本社会福祉士会理事候補者の選出 ⑤日本社会福祉士会研修移管への対応

報告事項 ①後見人候補者名簿登録状況・法人後見状況 ②広報事業部からの報告 ③神奈川県立入検査報告 ④会計事務所選定状況 ⑤正副会長動向報告(前回理事会から今回理事会までの期間) ⑥2ヶ月報告(事業部) ⑦各受託事業の進捗報告 ⑧各推薦後援状況 ⑨会計進捗状況(11月末現在) ⑩理事会(11月6日開催)議事録 <以上承認・了承>

■臨時理事会

平成29年1月11日(水) 19時～20時55分 神奈川県社会福祉会館2階 第2会議室

議長山下会長、理事出席13、議事録署名人：出席理事全員、齊藤監事、江原監事

審議事項 議案1 入退会審査 議案2 神奈川県社会福祉士会役員の報酬等及び費用に関する規則改正(案)・役員の日当旅費支払基準(案) 議案3 神奈川県社会福祉士会経理規則(案)

協議事項 ①2017年度神奈川県社会福祉士会事業計画(事業部事業計画・支部事業計画)案 ②年度神奈川県社会福祉士会予算(事業部・支部)案 ③ぱあとなあ案件への対応進捗状況(緊急対策会議報告等) ④日本社会福祉士会研修移管への対応 ⑤会計事務所選定プレゼン

報告事項 ①後見人候補者名簿登録状況・法人後見状況 ②日本社会福祉士会理事候補選出投票 ③正副会長動向報告(前回理事会から今回理事会までの期間) ④各推薦後援状況 ⑤会計進捗状況(12月末現在) ⑥理事会(12月10日開催)議事録 ⑦厚木市ホームレス巡回相談員推薦 ⑧職員状況<回覧><以上承認・了承>

□第6回理事会

平成29年2月18日(土) 13時～15時 ウィリング横浜5階 501

議長 山下会長、理事出席12名 議事録署名人 出席理事全員 齊藤監事 江原監事

審議事項 議案1 入退会審査・賛助会員の審査 議案2 2017年度神奈川県運営委員会委員及び地区コーディネーターの委嘱

協議事項 ①2017年度神奈川県社会福祉士会事業計画(事業部事業計画・支部事業計画)案 ②2017年度神奈川県社会福祉士会予算(事業部・支部)案 ③ぱあとなあ案件への対応進捗状況(緊急対策会議及び会員説明会報告) ④2017年度理事会開催日程

報告事項 ①日本社会福祉士会理事候補者選出選挙結果 ②関東甲信越ブロック連絡協議会(副会長出席) ③後見人候補者名簿登録状況・法人後見状況 ④会計事務所選定 ⑤正副会長動向報告(前回理事会から今回理事会までの期間) ⑥各推薦後援状況 ⑦会計進捗状況(1月末現在) ⑧2ヶ月報告(支部・事業部) ⑨受託事業進捗状況 ⑩理事会(1月11日開催)議事録 ⑪職員状況 ⑫横須賀三浦支部支部長代行<以上承認・了承>

□臨時理事会

平成29年3月11日(土) 18時～20時 ウィリング横浜11階 多目的室

山下会長、理事出席13名 議事録署名人 出席理事全員 齊藤監事 江原監事

審議事項 議案1 入退会審査 議案2 会計事務所契約 議案3 厚木市ホームレス自立支援相談事業実施に伴う相談員推薦

協議事項 ①ぱあとなあ案件への対応進捗状況 ②2017年度理事会開催日程 4月の予定変更 ③本会弁護士顧問契約

その他 ①会員に関する諸案件の報告 ②後見人候補者名簿登録状況・法人後見状況 ③受託事業の次年度契約 ④正副会長動向報告(前回理事会から今回理事会までの期間) ⑤各推薦後援状況 ⑥会計進捗状況(2月末現在) ⑦2017年度事業計画案・予算案作成進捗状況・2017年度からの会計システムの変更 ⑧理事会(2月18日開催)議事録 ⑨職員雇用確認(回覧)<以上承認・了承>



たまひよ紀行

参加者の
声



「たまひよくらぶ」は、社会福祉士を目指す方、社会福祉士となって日の浅い方が集い、交流し、つながりをつくり、深める場です。今回は、横浜支部と茅ヶ崎支部で開催された交流会をご報告します。

**3月10日
開催報告**

たまひよくらぶ@横浜

座間市社会福祉協議会 山角(やまかど)直史さん

一言でいうと、面白かったです。社会福祉士会の魅力を感じました。

社協に勤めていますが、社協以外の人や、市外の人とのつながりができて、興味深い話が聞けました。働く場所は違っても、同じ社会福祉士なので、気持ちや大変さが分かるし、見ている方向は同じだと思いました。職場とは違った人脈づくりができるのが、良かったです。今後の仕事にも生かせると思います。

小又 倫実さん

今回、縁あって神奈川県社会福祉士会の方とお話をする機会があり、この会を勤めて頂いた事から始めてたまひよクラブに参加しました。

私は今大学3年生でこれから社会福祉士の資格に挑戦する身であるので、たくさんの先輩方のお話を聞くことが出来ました。福祉といっても様々な分野があり、その中でも多様な働き方があり、机上では学びにくい事もお話してくださいました。大学で社会福祉を学んでいるものの中々その資格を使って働いている人と会う機会が無い為、生のお話を聞く事ができ、これからの就職活動にとっても参考になりました。また機会があれば参加してみたいと思います。



始めます!

たまひよ☆オアシス

ニューフェイスもベテランも
「つながりたい人たちが自由に出会える」

「たまひよくらぶの集まりに参加したあとも、もっとみんなで語り合い、深め合う場があったら…」 「困った時、気になることがあった時、気軽に話せる場がほしい」 「経験年数に関係なく、気軽に参加できると良いのに」

そんな参加者の思いを受け、「ここに行けばまたみんなと語り会える場」として「たまひよ☆オアシス」がはじまります。

カフェ形式の「たまひよ☆オアシス」は、社会福祉士に関心のある人が気軽に集まり、思いや考えを話し合う中で、仲間づくりや次のステップを見つけていくための“常設の場(=宿り木)”です。年3回(6月、9月、3月の土曜日15時～)を予定しています。第1弾となる「たまひよ☆オアシス@茅ヶ崎」は6月24日(土)午後3時～5時、「サザンポ」(茅ヶ崎市共恵1-10-29コートプランシュ1F。JR茅ヶ崎駅から徒歩5分)にて。参加費としてケーキセット代400円が必要です。事前の申し込みは不要。ふらりと立ち寄りください。



生涯研修センターよりお知らせ

●2017年度の生涯研修センター主催 研修予定について

2017年度生涯研修センター主催の研修は下記のとおりです。開催時期が近付きましたら、かながわの風の誌面や神奈川県社会福祉士会のホームページに掲載要項や申し込み書等を掲載いたします。

研修名	時期	内容
基礎研修Ⅰ	2017年7月～2018年2月	社会福祉士としての実践の基礎となる専門性について理解する。 受講料：9,000円
基礎研修Ⅱ	2017年5月～2018年2月	社会福祉士として共通に必要な実践の基礎的知識や技術について学ぶ。 受講料：22,000円
基礎研修Ⅲ	2017年5月～2018年2月	社会福祉士として共通に必要な知識・技術をふまえた、実践の展開を学ぶ。 受講料：22,000円
倫理綱領・行動規範研修	秋ごろ実施	社会福祉士の専門性とは何かを倫理綱領から振り返る。 受講料：5,000円
実践発表大会	2018年2月～3月ごろ実施	会員の方の日ごろの福祉実践の発表 受講料：無料

※2017年度から成年後見人材育成研修が始まります。成年後見人として名簿登録するために必要な研修ですが、基礎研修Ⅲを修了することが受講要件になります。成年後見人を目指す方は、基礎研修Ⅲまで受講してください。

●認定社会福祉士認証研修の実施について

神奈川県社会福祉士会では、2017年度から以下の4つの研修を、認定社会福祉士になるために必要な研修として実施する予定です。

研修名	時期	内容
災害支援活動者養成研修	2017年11月	社会福祉士としての支援活動への取り組み姿勢と知識、平時からの災害支援体制の構築
多文化ソーシャルワーク研修	2017年11月25日～26日	日本に暮らす外国人の生活課題を理解し、多文化共生社会をめざしたソーシャルワーク実践力を身につける。
リーガル・ソーシャルワーク研修	2018年1月	司法領域に関する基礎的な知識の獲得。支援のための基本的な対応スキルの獲得
障がい者の地域生活支援	2018年1月～3月	障がい者の地域生活支援を実践するために必要な力量養成

※認定社会福祉士認証・認定機構に認証申請を行う予定です。結果次第では、認定社会福祉士の単位に認められない場合がありますので、予めご了承ください。

※時期は変更になる可能性があります。詳しくは、今後発行するかながわの風の誌面や神奈川県社会福祉士会のホームページをご覧ください。

URL : <http://www.kacsw.or.jp/>

神奈川県社会福祉士会

検索

月	日	開始時間	終了時間	研修名	概要	場所	主催	対象	費用
4	23	13:30	17:00	横浜支部全体会	第1部・横浜支部の活動報告、活動計画 第2部・コミュニティソーシャルワーク実践講座受講者による発表会	横浜市西区福祉保健活動拠点 フクシア	横浜支部	一般	無料
5	20	13:00	17:00	湘南東支部全体会	基調講演：「若年性認知症の方の支援について（仮）」認知症ケア専門士会理事・広畑晶子氏	茅ヶ崎市	湘南東支部	一般	無料
5	20	13:15	14:00	全体会	県央支部の活動報告、活動計画	海老名市総合福祉会館	県央支部	支部会員	無料
5	20	14:30	16:30	市民講座	未定	海老名市総合福祉会館	県央支部	一般市民	無料
6	10	午後開催の予定		2017年度 代議員総会	講演会及び代議員総会を行います。詳細は決まり次第ホームページでご案内します。	ウイリング横浜	神奈川県 社会福祉 士会	講演会： 会員 総会： 代議員	無料
6	23	18:30	20:30	神奈川県国際多文化 ソーシャルワーク 研究会例会	講演：両宮 菜穂子氏 (東京パブリック法律事務所 弁護士 国際部門 FISS) 「外国人家族支援プロジェクト」	横浜市西区福祉 保健活動拠点 フクシア	神奈川県 国際多文化 ソーシャル ワーク研究 会	一般	無料
8	25	18:30	20:30	神奈川県国際多文化 ソーシャルワーク 研究会例会	講演：方 こすも氏(母子施設 カサ・デ・サンタマリア相談員) 「韓国の移住女性支援 センターの活動報告」	横浜市西区福祉 保健活動拠点 フクシア	神奈川県 国際多文化 ソーシャル ワーク研究 会	一般	無料

スーパービジョン体制について

2017年度より、認定社会福祉士取得に必要なスーパービジョンが、日本社会福祉士会から各都道府県へ移管になります。認定社会福祉士認証・認定機構に登録しているスーパーバイザーのうち、所属先が神奈川県社会福祉士会になっているスーパーバイザーに関しては、神奈川県社会福祉士会でコーディネート事務を行いますので、該当するスーパーバイザーにスーパービジョンを希望される方は、事務局までお問い合わせください。



編集後記

刻 ～とき～

「あれから何年が経つのだろう…」。
福島第一原発の廃炉に向けた作業の
動向 以外は平穏な毎日が流れる。
しかし、その感情はあまりにも失礼だろう…。僕の出逢った
避難者の方は皆、「3、4、5、6年」と決して忘れず時を
刻んでいる。故郷を無くした、追われた悲劇に「何年」は無
いのだろう…。その一人が僕の母親である。彼女は浪江町の
出身であるが、まだ浪江に主な産業が無い小さな町であった
頃、集団就職により上野へ降った。あれから数十年が経つが、
生まれ故郷を無くし、墓参さえ叶わない状況に今も胸を痛め
続けている。刻まれたのは時間だけでなく、人生そのもので

あったのだろう…。

幼き日、母の手に引かれ富岡町(夜の森地区)の桜を見に
出かけた記憶がある。数日前のニュースで7年ぶりに「桜まつ
り」が開催されるという知らせを耳にした。故郷へ還りたいと
願う人々の想いを栄養に、「桜」は街に笑顔が戻ることを待ち
続けたのであろう。消えない、消せない、忘れない、忘れて
はいけない、人々の揺蕩う想いを乗せ、一片(ひとひら)の
薄紅の希望が舞う…。

(広報委員長：日向 明)

※会員の皆さまへ、全国大会は福島県で開催されます。
是非福島へ足をお運びください。